

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201086		
法人名	ライフサポート 永楽台		
事業所名	グループホーム そよ風SUN		
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成24年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>民家改築型による家庭的な雰囲気のホーム</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム そよ風SUN」は民家改修型施設となっており、民家特有の温かみを活かした造りとなっている。外観だけでなく、接遇・日々の生活にも家庭的で温かみあるサービスを提供しており、入居者に安らぎの場となるよう工夫している。職員・運営者に地域住民が多数おり、馴染みの関係を活かしながら交流を図り、地域行事への参加・非常災害時の連携・日頃の交流等、様々な連携が図られている。また、運営推進会議には、20名を超える出席があり、内容の濃い検討や意見・情報交換が行われており、施設サービスの向上に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の理解に基づく行動が職員に徹底されている	「家庭的な環境」「安心と尊厳を守り、快適な共同生活」「健康な暮らし」を主眼とした施設独自の理念を掲げている。事業所内に掲示すると共に、職員会議や運営推進会議の資料に掲載し、職員・地域住民等の関係者に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中 怪我をされた訪問者があり 応急処置を施すなど地域とのつながりを持つ様にしております	施設関係者に地域住民が多く、散歩・外出時に地域住民と挨拶を交わす関係が築かれている。町内会に加入しており、お祭り・清掃活動・防災訓練等に参加し、地域との交流を図っている。また、婦人会や町内会の会合に参加し、積極的に交流の場を設けている。その他にも、ボランティアや職場体験の受け入れを行い、地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の銭湯の利用や行事に積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定着している 外部評価の報告 サービスの質等意見交換を密にしている	町内会長・民生委員・市役所職員・商店会会長・市の地域包括支援センター職員・婦人会会員・有識者・家族・施設職員等を構成員として、年2回、運営推進会議を開催している。会議には、20名を超える出席があり、活動報告等を行い、理解促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。その他にも、災害対策等を議題に挙げ、地域との居力体制の強化に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバー構成は地域の方々が参加されることが重要である その方針が理解されている	日頃から市に対して、業務における相談や報告を行っており、連携を図っている。柏市グループホーム連絡会の理事を務めており、連絡会を通じて、意見・情報交換を行い、市と連携を図る体制が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か が理解され 全職員が共有し 玄関・ベランダ・居室は解放されている	身体拘束排除におけるマニュアルを整備し、職員へ意義を周知している。。玄関・ベランダの施錠はせずに、入居者の自由な生活を支援している。また、必要に応じて、センサーやチャイム等を活用し、安全を確保した上で適切な支援が行えるよう工夫している。	身体拘束排除や虐待防止における研修記録や資料を施設にて保管する事で、職員間での情報の共有・サービスの統一・効率的なスキルアップ等に繋げて頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様 全職員が理念を理解し 共有している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者全員家族がおり 現時点では制度の理解は勉強程度になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される時点で十分な説明をし 更新時には書面にて説明し 理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービスの質の向上に向け 会議で決定し 家族・入居者・全職員に回答している	家族の面会時・電話連絡時に直接意見を確認すると共に、運営推進会議にて質疑応答を行っており、様々な意見・要望の確認に努めている。また、契約を終了した家族からも意見をもらう等、多種多様な意見・要望を施設サービスの改善に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議・勉強会で十分な討議をし 職員の理解を得ている	定期的に会議を開催しており、職員からの意見・提案等を確認している。また、柏市グループホーム連絡会の研修等に参加し、職員のスキルアップを図っている。その他にも、申し送りノートを活用しながら、職員間の情報の共有・意見や提案の確認を行っている。	研修計画及び研修記録を作成する事により、計画的な職員の質の向上・情報の共有を行い、より質の高いサービスの提供に取り組んで頂く事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護に情熱を持っている職員が納得されて仕事をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的参加を促進し 新人研修も個々に応じ 個別指導を実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年間行事に組み込み実地している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	幼児時と同様 慣れるまでの期間 個々の問題分析し 常に寄り添い傾聴し 精神的・身体的側面を理解している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族よりアドバイスを得る事が重要 家族関係を密にし 信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員の連携を深め 穏やかな態度で接し 安心・笑顔 が見られる様 努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同で行うことを見極め 日常生活を創り出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事・散歩・買物等家族参加を促し 安心して暮らしていける場所である事を理解してもらっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者の培った人間関係の維持のため 外泊・外出を家族が理解され実践している	入居者の馴染みの人の面会や訪問を随時受け付けており、馴染みの関係の継続に努めている。また、家族との外出・外泊は自由となっており、家族間の関係継続も支援している。その他にも、回想療法の研修に参加しており、過去の話から入居者の生活歴の把握や生活の活性化に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の中に職員がさりげなく位置して全体の配慮し 一人の話から全体参加に方向づけし 孤立を防いでいる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話・郵便等で連絡をしている アフターフォローは必要で重要な事と理解している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族の情報(趣味・エピソード)を共有し ケアプランに反映している	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて医師の意見書等をもらい、より詳しい情報の把握に努めている。定期的に記録を更新し、新しい情報を職員全員へ周知している。また、回想療法を活用しながら、入居者の思いや生活歴を引き出せるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者・家族の情報をもとに生活パターンを構築し 第一歩を踏み出してもらおう事としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	対応についてケース毎に会議をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族より本人がどの様に変化されているか聞いて記録する その上でケアマネジャー中心にケアプランを作成している	本人・家族の意向を確認すると共に、看護師・医師と密に情報交換を行いながら、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認・評価を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。職員間での意見・情報交換は都度行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り日報を重視し 出勤時読み 理解する事を義務づけている その上で日常業務を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の変化に即した対応をして 社会との関わりを維持している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事・市主催の催しに積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況の変化が生じた場合 対応に関してかかりつけ医の存在が非常に重要である 良好な関係にある	受診においては、往診を中心に行っており、緊急時には、協力病院と連携を図り、適切な医療支援が行える体制を構築している。また、訪問看護を実施し、適切な健康管理を行っている。主治医・看護師の訪問記録や居宅療養管理指導書等を作成しており、関係機関同士の情報交換も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示により身体介護を行っている 良好な関係である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医師は病院勤務でもあり 病院と家族関係はスムーズに行われている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末ケアの体制について家族と相談し決定している 支援可能な体制で臨んでいきたい	終末期・重度化における方針について説明を行い、同意書を交わしていると共に、民家改修型施設のリスク・特徴等を家族に説明し、了承を得ている。重度化した場合には、家族と話し合いを行いながら、意向に沿った支援ができるよう体制を整えている。また、必要に応じて、医療機関や他サービスへの切り替えが生じた場合、円滑に移行できるよう協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応 あわてず 落ち着いて 行動する事が出来る(Dr・NS・上司・家族に連絡)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等近所にも声をかけし 協力依頼をしている	施設内はオール電化となっており、火災の予防に配慮した造りとなっている。また、火災報知機・自動通報器等の設備が設置され、火災対策がなされている。職員が防火管理者研修を受けており、適切な避難方法を身に付けている。その他にも、運営推進会議を通じて、地域との話し合いを設けており、非常時・緊急時の協力体制を構築している。	今年度は、消防設備の設置工事により、避難訓練は行っていない。消防設備の点検等を踏まえ、早急に避難訓練を実施し、非常災害時における施設内の連携をより強化して頂く事を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の基本を身につけ、質の高いサービスを提供している	施設は、民家改修型となっており、スペース・設備は限られているが、ロールカーテンや仕切りを活用し、個々のプライバシーが確保できるよう工夫している。また、接遇においては、言葉使い・声掛け方法を工夫し、入居者の尊厳に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志決定が可能な場合、確認し、サービス提供している。不可能な場合表情を注視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	精神的・身体的状況の変化を判断し、本人の意志決定を尊重し日程を決定している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の判断を基に決定している。判断ミスの場合は相談しながら適切なアドバイスを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対する関心を維持してもらう為、献立・買物・調理・配膳・片付けに参加している	入居者の希望や能力に応じて、準備・調理・片付け等を共同で行っている。献立においては調理師職員を中心に作成し、栄養バランス・季節感に配慮した食事提供に努めている。季節に応じた食事会の実施・松花堂弁当の活用・手作りおやつの実施・行事の特別食の提供等、様々な手法で入居者に食に対する楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人日報に摂取状況を記録し、検討している。申し送りを重視している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おやつ。就寝前、口腔ケア実施。口腔の変化に対して記録している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時誘導を中心に、変化に即応、失敗や排泄で生じる不快感を減らすよう支援している	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、排泄の自立に向けた排泄支援が行われている。必要に応じて、看護・受診記録を基に関係機関と相談し、適切な排泄コントロールが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取を基本にし、下剤・整腸剤の服用で対応し記録している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前午後と本人の希望確認バイタルサインより判断し、入浴を楽しみと思ってもらう様、工夫している	入浴日を定めているが、入居者の希望や状況に応じて、回数・時間等、柔軟に支援している。また、必要に応じて部分浴・シャワー浴・清拭等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。脱衣所のロールカーテンを活用し、プライバシーに配慮すると共に、直接トイレに行ける等、利便性にも配慮した工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は仮眠される事、夜間は安眠・良眠を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師の指示に従い、投与確認記録をし症状変化に注意をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野に参加を誘導し、本人の能力を発揮してもらえる様、共同で行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は社会参加である、社会の一員と考えており、日課に組み込みをしている。家族に本人の要望を伝えている	天候や希望に応じて、散歩・買い物等の外出を日々支援している。また、自由にベランダや駐車場に出る事が可能となっており、近隣住民との交流の場となっている。その他にも、グループホーム連絡会や地域の行事に参加し、入居者の生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物・神社参り等、金銭所持を実践している。自分で支払う行為を傍で見守りしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得ながら実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しく過ごす空間としてサロンは南に面している。「縁側でのんびり」の実現が可能である	施設は民家改修型となっており、入居者にとって馴染み深い造りとなっている。共有スペースには、テーブル・ソファ・静養スペースが設置されており、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮している。また、随所にパネルヒーターが設置されており、室内の気温が適切に保たれている。その他にも、カラオケ設備・ベランダ・駐車場の活用により、入居者の生活の活性化にも配慮した環境が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローリングの床・畳の部屋を自由に利用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など持ち込んでいただき、使い慣れた物、思い出の品で部屋を創り出している	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、希望に応じて畳や布団を使用する事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りに努めている。センサー等を活用し入居者の安全に配慮すると共に、各居室にエアコン・パネルヒーターを設置しており、適切な空調管理が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	開放されているホームのモデルとなれるよう努力している		